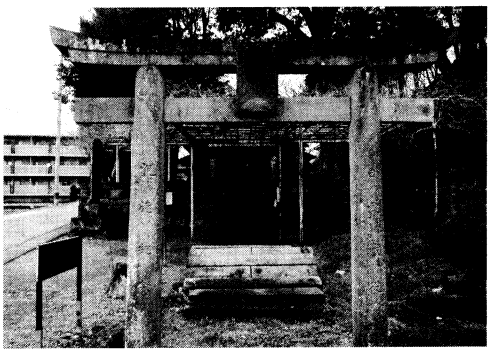
め廣瀬家の人々の参詣は、病気の平癒祈願、遠来の客や塾生の入門・大帰などの進退の際の参詣、旅の平安祈願とお礼参りのほか、詩会、散歩、初午のお参り、花見などと、その目的も実に多様である。また「家君守歳。於龍馬森稲生祠。」「家君守夜於宮太夫稲生祠」「家君守歳於宮大夫稲生祠」などと見え、父三郎右衛門はじめ廣瀬家の人々が「おこもり」をしているのも注目される。

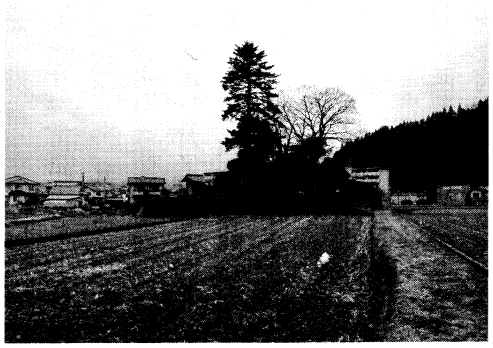
淡窓は、天保三年から同五年にかけてなぜか特に頻繁に参詣している。すなわち三年七月の二一日から二八日まで、八月の八日から一二日まで、そして同五年四月一三日から二三日までと六月の一八日から二六日まで、この間はほとんど毎日参詣したことが記されている。


会所宮神社

会所宮神社（図1・28）

大原神社の近隣にはこのほかにも淡窓師弟が足を運んだところがある。そのひとつが、大原神社の南一キロあまりのところにある会所山と、麓にある会所宮神社、及びそのすぐ南にある鬼塚である。会所山は『豊後国風土記』に見える景行天皇巡幸にかかる久津媛の伝承にちなむところであり、頂上には久津媛神社がある。文政十一年（一八二八）には、

二月十七日。伸平、謙吉及門生十余人ト散歩シ、鬼塚ニ登リ下堰ヲ経、上堰ニ至リ、人家楼上ニ於テ行厨ヲ開キ、又小舟ニ棹シテ巖下ニ至リ、而シテ帰レリ。病来出遊ノ遠キ者ナリ。故ニ之ヲ録ス。


鬼塚

とある。淡窓師弟は、豆田、咸宜園から隈川や高瀬方面に歩く場合、田島から会所宮を経て、この鬼塚に登り、さらに川筋に歩いた。「遠思楼詩鈔」にはこの鬼塚を詠んだ詩がある。

小山全剥落　巨石尚穹窿
鬼塚何人塚　人傳是鬼工

三　盆地西部

豆田の西、現在の十二町から友田に至る一帯は、数多くの神社仏閣があり、また中城川を通る通船が往来した道筋にあたるところである。この付近は、日田から筑前・筑後・肥前方面に向かうときの起点になる所でもある。ここにも淡窓師弟は度々足を運んだ。中でも重要な位置を占めるのが玉垂神社（黒男祠）である。

玉垂神社（黒男祠）（図1・31）

今も「くろうさま」と呼ばれる玉垂神社は、咸宜園から西に一キロあまりのところ、日田市十二町にある。豆田の町から西へ向かうとき、その要衝にあるお宮である。玉垂社は武内宿弥と伝える。これは福岡県久留米市の高良山に鎮座する高良大社の祭神、高良玉垂命が武内宿弥であることから何らかの関係があったものと思われる。同神社は筑前方面への通筋にあり、咸宜園にも近かったので、廣瀬淡窓は参詣と散歩をかねてしばしば訪れた。

例えば、

・文政九年（一八二六）

又秋冬ノ間ト覚エシ。家人門生数輩ト舟ニ乗シテ、新原ノ児玉茂カ宅ヲ訪ヘリ。病後、人ヲ訪フノ始メナリ。詩アリ。舟遊ノ趣ヲ記ス。